

井関農機100年の歩み

井関グループが紡ぐ「過去・現在・未来」

井関グループは、創業者の「農家を過酷な労働から解放したい」という想いを連綿と受け継ぎ、「お客さまに喜ばれる製品・サービスの提供」を通じて、社会課題の解決に資する価値を創出し、成長を続けてきました。創立101年目を迎えた現在、新しい100年に向けて夢ある農業と美しい景観を支え、持続可能な「食と農と大地」の未来を創造し、さらなる挑戦を続けていきます。

創 立

- … 1926年（大正15年）創業者・井関邦三郎は、愛媛県松山市に「井関農具商会」を創立し、全自動耨すり機の販売を開始しました。



- … 1936年（昭和11年）「井関農機株式会社」を設立しました。主要製品は、耨すり機・麦すり機で、このときから当社は各製品に「㌹セキ式」の名称を使用することになりました。



課題・ニーズ

- 戦後の食料増産ニーズ

価値

- 農業の機械化による労働負荷の軽減・生産性向上

1945-

- … 1965年（昭和40年）本格水田作業用としてトラクタ「TB20型」の生産販売を開始しました。機能、スタイルなどポルシェトラクタの技術を応用した製品で、富士山登頂に成功し、その性能が高く評価されました。



- 1926年 ● 「井関農具商会」を創立
- 1936年 ● 「井関農機株式会社」を設立

- 1946年 ● 松山工場を設立
- 1949年 ● 熊本工場を設立
- 1958年 ● 系列販売会社の設立を開始以降、販売会社を日本全国に展開
- 1961年 ● 新潟工場を設立
東京証券取引所に株式を上場

- 1969年 ● 東京支社を本社事務所と改称
- 1971年 ● ブラッセルにN.V. ISEKI Europe S.A.S.（現ISEKI Europe GmbH）を設立
- 1972年 ● 松山工場を増設、本社を同所に移転
- 1977年 ● 茨城県に中央研修所（現ISEKIグローバルトレーニングセンター）を設立
北米にトラクタを輸出開始（OEM）

課題・ニーズ

- 農業従事者の減少・高齢化の加速
- 食料自給率の向上
- 世界人口増加に伴う食料増産ニーズ

価値

- 国内外の地域にあった農業機械の提供による農業生産性向上と景観整備保全
- 営農提案・サポートによる新しい農業価値の提供

- … 1993年（平成5年）ISEKIの「I」をシンボル化した商品用シンボルマークが決定。上部の楕円は『目標』を、下部は『人』を、そしてそれらをつなぐ、『グローバルな心の輪』を表現しています。



- … 1999年（平成11年）特許を取得した当社独自の排出機構「ズームオーガ」を搭載したコンバインを開発しました。



2010-

- … 2013年（平成25年）農林水産省の「農業女子プロジェクト」に参画。「夢ある“農業女子”応援Project」には、10年間で1,000名以上の女性農業者が参加。基幹的農業従事者の約4割を占める女性農業者の活躍を支援し、農業の発展と地域経済の活性化に貢献しています。現在は社内有志の女性による推進チーム「さなえ倶楽部」を発足し活動しています。



課題・ニーズ

- 食料安全保障への対応強化
- 農業の大規模化に伴う生産性向上、農作物の付加価値化
- 自然災害・気候変動への対応の必要性
- 環境対応の高まり、脱炭素社会実現への貢献

価値

- 省力化・無人化・データ活用による農業の生産性向上
- 環境保全型農業の推進や電動化等によるCO₂排出量の削減

- 2001年 ● 製造部門の分社により、㈱井関松山製造所、㈱井関熊本製造所を設立
- 2003年 ● 中国江蘇省に井関農機（常州）有限公司を設立
- 2011年 ● 中国湖北省に東風井関農業機械（湖北）有限公司を設立
- 2012年 ● PT.ISEKI INDONESIAを設立
- 2013年 ● ISEKI SALES (THAILAND) CO.,Ltd.（現IST Farm Machinery CO.,Ltd.）を設立

- 2014年 ● 井関常州と東風井関を事業統合し、東風井関農業機械有限公司を設立
- 2014年 ● フランス販売代理店Yvan Beal S.A.S.、YB Holding S.A.S.（現ISEKI France S.A.S.）を子会社化
- 2015年 ● 夢ある農業総合研究所を設立
- 2020年 ● タイ販売会社 IST Farm Machinery CO.,Ltd.を連結子会社化

- 2022年 ● ドイツ販売代理店Iseki-Maschinen GmbHを連結子会社化
- 2024年 ● ㈱井関松山製造所と㈱井関熊本製造所を合併し、㈱ISEKI M&Dを設立
- 2025年 ● 国内広域販売会社6社と三重㌹セキ販売㈱を合併し、㈱ISEKI Japanを設立
- 2025年 ● イギリス販売代理店PREMIUM TURF-CARE LIMITED（現ISEKI UK & Ireland Limited）を連結子会社化

新しい100年へ

「食と農と大地」のソリューションカンパニーの実現

持続可能な食と農を未来につなぐ

「安全で安心な食」を未来につないでいくために、当社は“先端技術を活用したスマート農業”や“環境保全型農業の普及・促進”、“アジア農業の機械化”等、生産性の高い持続可能な農業の実現に貢献し続けていきます。



住み続けられる大地の実現

欧州・北米市場向けの草刈機やコンパクトトラクタ等は、景観整備を通じて住みよい村や街の実現に貢献し、“人々の生活の質の向上”を支えています。これからもお客さまに喜ばれる製品・サービスを提供し続けていきます。

環境や人に寄り添う社会の実現

食を支える農業や人々の暮らしを支える景観整備事業はエッセンシャルなビジネスとして重要性が増しています。当社は環境に配慮した事業活動を通じて、脱炭素社会と循環型社会の実現に貢献します。



2020-

- … 2018年（平成30年）当社として初めて自動走行が可能なロボットトラクタを「TJVシリーズ」として商品化しました。有人監視下での無人作業やオペレータが運転するトラクタとの2台同時作業を実現し、農業の省力化・生産性向上に貢献しています。



- … 2016年（平成28年）農業現場の課題である稲の倒伏対策と肥料コスト削減を両立する「NPシリーズ（土壌センサ搭載型可変施肥田植機）」を発売しました。田植えと同時に土の状態にあわせて施肥量を自動調整する業界初のスマート田植機として、可変施肥技術と側条施肥を組み合わせることで、約30%の肥料量削減につながりました。

